

平成23年7月25日

埼玉県発達障害者福祉協会

会長 長岡 均 様

宮城県知的障害者福祉協会

会長 中村 正 様



### 義援金贈呈及び物資の御礼について

この度は、心の籠もった励ましや高額の義援金及び物資をお贈りいただき、心から厚く御礼申し上げます。

激甚を極めた東日本大震災の被害の実相は、実に惨憺たるものでした。猿の惑星のラストシーンさながらの荒蕪たる光景が展開し、啞然とする日が続きました。沿岸部の活気を呈していた水産加工業も瓦礫と化し、その跡をとどめる曲がりくねった廃ビルの無残な姿、公共施設までが、コンクリートの壁面が半ば剥離し、赤さびた鉄骨を曝け出し、高台にある低層の福祉施設までもが大津波の激流に抗し切れず波に揉まれるなど、津波の威力のすさまじさに戦慄とさせられました。高台の奥地に立地した施設郡も避難者でいっぱいとなり、利用者支援もままならない状況が長期化しました。長引く断水に加え、燃料が手に入らないまま孤立を深める施設も多く現出しました。職員の住処の多くは沿岸部にあり、大半が瓦礫と化し、最愛の家族を失い呆然と佇む姿に言葉も出ないほどでした。また、市街地への販売店舗進出に法人の命運を賭け、職員の作業研修や機械装置の設置まで済んだのに、開業を目の前にしてその全てを流され、夢を挫かれた施設もありました。それだけにお寄せいただいた温かい支援は何ものにも代えがたい励みであり、再起への思いを沸々と沸き起こす力となりました。本当にありがとうございました。

災害から4ヶ月半経過しますが、沿岸部の市町は公共施設の大半を失い、町の再建には気の遠くなる道筋を歩まねばならないところも少なくありません。土地利用計画の行方も産業再興への見通しも定かでなく、そのことが不安を煽っています。そのなかでも、福祉関係の再起に挑む動向は光彩を放っており、おそらくは地域復興の先導役となるのではないかと思える勢いです。私たちは、全国から寄せられた支援を通して確信できた仲間の連帯感・福祉を求める方々への使命感の強さが、これから先の福祉の発展の歩みに大きな一石を投じるものと受け止めています。

災害現場は、復興の夜明けを迎えるには時間がかかりそうですが、宮城県協会会員一同、皆様からお寄せいただいた福祉の心意気を心に刻み、力をあわせ復興に邁進することを誓っている毎日です。

最後に、皆様のご健勝と益々のご発展を心よりご祈念申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。